

財政ビジョン（横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン）

～現役世代の我々のみならず、「将来を生きる市民も活躍できる横浜市」をつくる～

将来を見据えた中長期的な視点



「財政ビジョン」は、わたしたちだけでなく、子や孫の代まで、
みんなが幸せに暮らすための「**財政の道しるべ**」



「財政ビジョン」には、
なんて書いて
あったっけ？

「**持続的な財政**」を土台として市政を展開していくことで、
横浜の豊かな未来を将来世代につないでいくための、
「**中長期の財政方針**」（令和4年6月策定）

【持続的な財政の3要素】

- 行政サービスを
提供し続けることができる「**安定性**」
- 災害等が起きても
市民生活を守ることができる「**強靱性**」
- インフラ整備など長期的な発展に向けた事業を
進めることができる「**将来投資能力**」

財政ビジョン (横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン)

～現役世代の我々のみならず、「将来を生きる市民も活躍できる横浜市」をつくる～



財政ビジョン（横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン）

～現役世代の我々のみならず、「将来を生きる市民も活躍できる横浜市」をつくる～



「一般会計が対応する借入金
市民一人当たり残高」を
2040年度に現在水準
（約83万円）に抑制

2030年度までに、
減債基金に頼らず
収支差を解消

- ・ 公共建築物の床面積を
2040年度時点で
現在水準より増やさず、
2065年度までに1割縮減
- ・ 未利用等土地を
2030年度までに30ha
2040年度までに60ha
利活用

持続可能な市政運営の
基盤となる地方税財政制度の
充実に向けた、データに基づく
課題提起と、具体的な国への
提案・要望

債務管理アクション

収支差解消アクション

資産経営アクション

地方税財政制度の
充実に向けた課題提起

4つの「将来アクション」